

## ヴィジュアルイメージと親密圏／公共圏

### Visual Images of Intimate and Public Spheres

伊藤 公雄（京都大学大学院文学研究科 教授）

#### 【参加者】

杉本 淑彦（京都大学大学院文学研究科 教授）

朴 珍 姫（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程）

トジラカーン・マシマ Mashima Tojirakarn（京都大学大学院文学研究科 修士課程）

森 下 達（京都大学大学院文学研究科 修士課程）

日高 利泰（京都大学文学部）

#### 【ねらいと目的】

現代におけるさまざまなヴィジュアルメディア、とりわけ大衆文化との関わりが深い映画、テレビ番組・広告、マンガ、雑誌を取り上げ、まず、そのようなメディアのなかで表されてきた「親密圏」と「公共圏」のありようを検討する。そして、メディアのなかの仮想の「親密圏」・「公共圏」が、現実社会における「親密圏」・「公共圏」の構築にどのような影響を及ぼしてきたのか、という問題も検討する。

ヴィジュアル・メディアに映し出された「親密圏」／「公共圏」の考察の一方で、特に若い世代における社会関係（親密性およびそれとのかかわる公的諸関係）にかかわる諸問題を設定し、インタビューを含む映像化を行う。これらの映像については、調査の成果資料とすると同時に、社会学等の教材としての活用をはかる。

さらに、比較の視点を重要視し、日本だけでなく、韓国と東南アジア諸国のヴィジュアルメディアを考察対象とする。比較によって、各国固有あるいは共通の「親密圏」と「公共圏」を把握できるだろうし、くわえて、東アジア・東南アジアを覆う「公共圏」についても、その特徴を攻究できると考える。

#### 【活動の記録】

2009年12月11～13日

京都大学国際シンポジウム「学術研究における映像実践の最前線」（於：京都大学100周年記念大ホール）の運営および第7セッション「ヴィジュアル・イメージと親密圏」の主催。

2009年12月19・20日

「国際学術会議 世界のコミックスとコミックスの世界」（京都精華大学国際マンガ研究センター主催、於：国際マンガミュージアム）に参加、報告。

2010年3月24日

「不安定社会における若者の親密圏／公共圏」映像発表会（於：京都大学文学部社会学共同研究室）。制作映像「現代若者の就職活動事情」「オタクのモラル」「排外主義運動と若者」の発表と参加者によるコメント。

定例研究会（計21回）

2009年4月11日 「少女マンガにおける男性同性愛の諸問題その1」報告：日高利泰

2009年4月26日 「アニメ表現の特性と戦闘アニメが表現するイデオロギー」  
報告：トジラカーン・マシマ

2009年5月10日 「少女漫画における男性同性愛をめぐる諸問題その2」  
（ディスカッションのみ）

2009年5月23日 「元編集者へのインタビュー中間報告」報告：日高利泰

2009年6月6日 「高橋真琴から巖喜子へ — 純情マンガにおける「3段ぶち抜きスタイル画」と「瞳に星」」報告：金素媛

2009年6月20日 「黄金期純情マンガの特徴について」報告：朴珍姫

2009年7月11日 「現代マンガにおける農業・農村表象の変遷」報告：一宮真佐子

2009年8月1日 花園大学にて夏目房之介の講演に参加

2009年8月22日 「映画『ゴジラ』と戦争の記憶」報告：森下達

2009年9月5日 「少女マンガ作家インタビュー（8/24）の中間報告」報告：一宮真佐子

2009年9月23日 「非都市空間におけるコミュニケーション様態の諸表象について」  
報告：日高利泰、橋爪太作（東京大学教養学部）

2009年10月10日 「マンガにおけるページ数制約と主観表現」報告：トジラカーン・マシマ

2009年10月24日 「マンガ表現の時空（1）（2）（3） — レイヤー分解・少女マンガのコマ・マンガ表現の感性認知記号論 — を読む」（ディスカッションのみ）

2009年11月14日 「編集者に対するインタビュー調査中間報告」、「ちばてつやインタビュー上映会」報告：日高利泰

2009年12月5日 「『マンガの社会学』を読む」報告：森下達

2009年12月19日 京都精華大学国際マンガ研究センター主催「国際学術会議 世界のコミックスとコミックスの世界」へ参加

2010年1月12日 「韓国テレビドラマの純情漫画化過程」報告：朴珍姫など

2010年1月23日 「GCOE 成果報告会準備検討会」報告：日高利泰

2010年2月14日 京都精華大学国際マンガ研究センター連続公開研究会「マンガと学術研究 第6回 女性が描く」への参加

2010年3月3日 「BLの強度 — ジャンル境界の画定とパロディの成立条件」報告：日高利泰

2010年03月26日 「少女マンガ評論の現状考察および来年度の活動について」報告：日高利泰

## インタビュー調査

2009年5月18日

小学館の元編集者に対するインタビュー（日高利泰、朴珍姫、トジラカーン・マシマ）

2009年8月24日

現役少女マンガ作家に対するインタビュー

（日高利泰、一宮真佐子、今田絵里香、朴珍姫、トジラカーン・マシマ、森下達）

### **【成果の概要】**

ヴィジュアル・イメージと親密圏／公共圏の研究グループは、「ヴィジュアル・イメージと親密圏／公共圏部会」と「少女マンガ研究部会」の2つの班に分かれ、それぞれ以下のような研究活動を行った。

「ヴィジュアル・イメージと親密圏／公共圏部会」は、主に伊藤公雄の大学院ゼミの授業を軸に、「不安定社会における若者の親密圏／公共圏」をテーマに研究を実施した。

前半期は、欧米および日本社会における若者のおかれた「不安定性」について、文献を読み、討論を行なう形で進められた。後期は、前期の研究成果を踏まえつつ、3つのグループに分かれ、現在日本の若者世代が直面している課題を選択し、それを映像化／編集し、社会学教材として制作するという作業を実施した。成果物として、「現代若者の就職活動事情」「オタクのモラル」「排外主義運動と若者」という3本の映像教材としてまとめられた。

2010年3月24日には、京都大学文学部社会学共同研究室において、制作された3本の映像をもとにセミナーを開催し、京都大学のみならず、筑波大学の大学院生／教員の参加により、熱心な討議が行なわれた。

また、伊藤が運営委員として加わった第13回京都大学国際シンポジウム「学術研究における映像実践の最前線」（2009年12月11～13日）に、部会として積極的に参加し、第7セッション「ヴィジュアル・イメージと親密圏」を主体的に運営した。

「少女マンガ研究部会」は、杉本を中心に前年度の研究を継続し、マンガ編集者や作者（ちばてつや氏など）へのインタビューを実施するとともに、ほぼ月2回程度（計21回）の定期的な研究例会を開催した。

また、2009年12月19日に京都精華大学国際マンガ研究センター主催で開催された「国際学術会議 世界のコミックスとコミックスの世界」に研究メンバーの多くが参加し、知見を深めた。なお、この国際学術会議においては、伊藤公雄が「男性が少女マンガを読む時」と題して報告し、国際シンポジウムにおける討論に参加している。

